

【保健環境研究センター7月だより ～蚊にご用心～日本脳炎について～】

・日本脳炎の流行地域

日本脳炎は日本脳炎ウイルスによる急性脳炎で、日本を含む東アジアから南アジアにかけて患者発生が見られます（図1）。我が国では少数ながら毎年患者が発生しており、国は宿主動物であるブタの血清抗体を測定することで間接的に日本脳炎ウイルスの発生状況を調査しています（図2）。その結果から、本州以南ではこのウイルスが活動していることがわかります。奈良県でも、2004年に1例の患者発生（死亡例）がありました。

・感染経路と症状

日本脳炎ウイルスは「蚊－ブタ－蚊」の感染サイクルにより維持され、蚊を媒介としてヒトに感染します。ヒトからヒトへの感染はありません。主媒介蚊であるコガタアカイエカは7、8月に多く発生し、日本脳炎ウイルスに感染すると一生ウイルスを保有し続けます。このコガタアカイエカは、一説には一晩に10km以上も移動するといわれ、ブタ飼育地域からやや離れた場所でも感染リスクがあると考えられます。不顕性感染が多く、発症するのは感染者1,000人のうち1～3人程度です。しかし、いったん発症すると発熱（38～40℃以上）、頭痛、悪心、意識障害などを起こし、死亡率は20～40%にもなります。また、脳にダメージを受けるため予後が悪く、生存者の約50%に精神神経学的後遺症が残り、とくに小児は重度の障害（パーキンソン病様症状や麻痺、精神発達遅滞など）を残すことが多いとされています。

・感染予防とワクチン

日本脳炎の予防には、まず蚊に刺されないことが重要です。家庭では網戸を使用して蚊の侵入を防ぎ、屋外では肌の露出をさけ蚊忌避剤を使用するなどの対策を実施しましょう。また、ワクチンによる予防が有効です。予防接種法に基づく日本脳炎の定期予防接種（無料）スケジュールを表に示します。接種歴がわからないなど、不安がある人は市町村窓口等に相談してください。

表. 日本脳炎ワクチンの定期接種スケジュール

第1期 (3回)	初回接種（2回）：生後6か月以上90か月未満（標準として3歳） 追加接種（1回）：初回接種後おおむね1年後（標準として4歳）
第2期 (1回)	9歳以上13歳未満（標準として9歳）

<参考> 厚生労働省「日本脳炎ワクチン接種に係るQ&A」

URL：http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou21/dl/nouen_qa.pdf

（ウイルスチーム 井上 記）



図1. 日本脳炎ウイルス活動地域（WHO資料から引用）

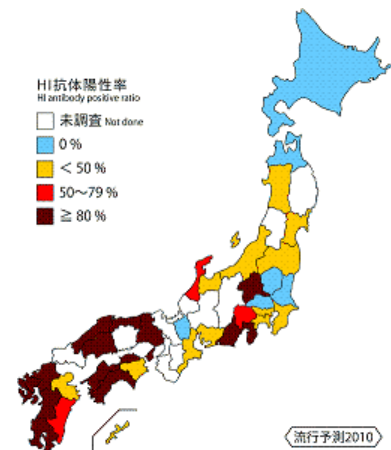


図2. ブタの日本脳炎抗体保有状況（平成22年度感染症流行予測事業データから引用）